

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
1	1	全体	この案で良いと思います	いただいたご賛同の意見を真摯に受け止め、市民の皆様の安全・安心を守るため、持続可能な消防行政サービスを推進してまいります。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。
2	2	P.10	Bパターンがいいと思います。島ヶ原だけで、一箇所というのは、地域が他の所に比べてせまいし、人口も少ないからです。でも、災害の時、必ず避難する地区も、あるので、今の場所ではなく、安全なところに、移転して、地域の皆さんが安心して避難できる場所にしてほしいです。	貴重なご意見ありがとうございます。島ヶ原分署の現庁舎が浸水想定区域に立地していることは本構想でも課題として認識しており、いずれのパターンにおいても安全な場所への移転を前提としております。今後の具体的な位置の検討に際し、ご意見を参考とさせていただきます。
3	3	P.5 P.35	線状降水帯など、最近の自然災害は非常に気になります。洪水、大きな河川周辺の集落に近い堤防結界などを考慮して、〇〇分署等の配置を考えて消防隊の到着が早くなるよう改善して欲しい。	本構想では、南分署・丸山分署・島ヶ原分署が浸水想定区域に立地していることを課題と捉え、移転を計画しております。自然災害への対応力強化の観点も踏まえながら、適正な署所配置に努めてまいります。
4	4	全体	人口減少、既存建屋の老朽化は防ぎきれない。 伊賀市一つとして考える事は賛成です。	いただいたご賛同の意見を大切に受け止め、人口減少や施設の老朽化という現実を直視しつつ、伊賀市全域を一体として捉えた効率的で持続可能な消防体制の構築に向けて取り組んでまいります。
5	6	全体	老朽化や、浸水想定区域にある消防署は少し問題があるのではないかと思います。三重県でも、人口の割にカバーすべき面積が広い地域なのではないでしょうか。	ご指摘いただいたとおり、本市は広大な面積を有しており、浸水想定区域に立地する署所の移転を含む適正配置は喫緊の課題です。面積的な課題も十分に考慮しながら、消防力の維持・向上に取り組んでまいります。
6	6	全体	細かく分署を作ること必要かもしれませんが、予算的に難しいでしょうか？	貴重なご意見ありがとうございます。署所を細かく配置することは市民の安心感につながる一方、人口減少が進む中では人員確保・施設維持の両面で困難が生じます。限られた人員・財源の中でも市民サービスの維持・向上を最優先に考え、地域の実情や出動状況等を踏まえた適正な署所配置に取り組んでまいります。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：35人（意見なし：2人） 意見数：57件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
7	7	全体	人、物、金という行政経営の資源が制約される中というが、消防、救急関係は人の生命に直結する一番大事な業務であって、無くても我慢できる道路や公共施設等の便益施設とは違い、行政としては最優先で取り組む業務である。このことをしっかりと認識すべきである。財源等を理由に、他の業務と同列に合理化や節約を考えるべきものではない。	貴重なご意見ありがとうございます。消防・救急が市民の生命を守る最重要の行政サービスであるという認識は市も共有しております。本構想は削減ありきではなく、人員・財源が制約される中でも消防力を維持・強化するための次善の方策を検討したものです。ご意見を参考とさせていただきます。
8	7	P.30-35	島ヶ原での救急に関して、短時間で病院へ搬送することにより命が救われるケースが増えている中、現在、救急要請のあった家に着いてから病院に到着するのに30分以上をも要し問題視されている。中間案の検討に際しては、他所へ移転や統合すれば更に10数分余分に時間を要するという結果などを試算しているが、そもそも大都市でもない伊賀市において、2回目3回目の出動時の合理化を検討する必要があるのか極めて疑問。それより、初回出動における対応時間の短縮をいかに図るかの方が重要。統合等により2回目3回目の出動時の合理化が図られるという論法は単なる詭弁で改めるべき。	貴重なご意見ありがとうございます。初回出動の到着時間が最重要であることは市も同様に認識しております。しかしながら、島ヶ原の救急出動の6割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する2回目3回目の出動の効率化も踏まえた署所配置の検討は必要であることをご理解いただけますと幸いです。
9	7	P.9-12	対等合併当時の理念、約束を尊重し、島ヶ原分署は、現在地に近い場所での再配置を検討願いたい。	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。島ヶ原分署の移転先については、現庁舎が浸水想定区域内に立地していることから浸水想定区域外への移転を計画しておりますが、現時点で特定の場所をお約束するものではなく、今後の人口や消防需要の推移、浸水リスク等を総合的に検討してまいります。
10	8	全体	中間案は将来像や重点分野が整理されており方向性は理解できますが、人口減少・高齢化の進行速度に対して、施策の具体性が不足していると感じます。特に、若い世代の定住促進、地域コミュニティの担い手確保、産業活性化の3点は、より踏み込んだ数値目標や実行計画が必要です。また、DXの活用や民間との協働など、行政だけに依存しない仕組みづくりを明確にすることで、持続可能なまちづくりが実現しやすくなると考えます。理念を実行に移すための具体策の強化を求めます。	貴重なご意見ありがとうございます。本構想は消防署所の適正配置を主題としており、定住促進や産業活性化については他の計画において取り組みを進めております。消防分野においてもDX活用や関係機関との連携強化は重要な視点であり、ご意見を参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
11	9	P.9	検討パターンはAが良いのではないかと感じました。	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。Aパターンはコスト面での優位性がある一方、島ヶ原地域の運用効果が著しく低下することが調査・分析の結果から見込まれております。市民の皆様の安全を市全域で均等に確保する観点から、C'パターンを採用するとしておりますが、ご意見を参考とさせていただきます。
12	11	P.9-12	消防署統合につきましては賛成です。本来であれば、各地区それぞれに近い消防署がある方が良いですが、人口減少に伴って運営が難しいという事ならば致し方ないと思います。	ご理解いただけますことを大変ありがたく存じます。統合によるメリットを最大限に活かしつつ、デメリットの補完にも努めながら、市民の皆様の安全・安心を守る消防体制の構築を進めてまいります。
13	11	P.17	ドクターヘリの離着陸場の整備については賛成です。伊賀市は山間部が多く、広いので、消防署統合などが今後進むのであれば、ドクターヘリの活用も視野に入れていかなければならないと思います。	ご賛同を大変心強く受け止めております。統合分署に隣接したヘリコプター離着陸場を整備することで、大規模災害時の対応力強化や救急との連携強化が図られるものと考えております。引き続き実現に向けた検討を進めてまいります。
14	12	P.11	1番良いのはCパターンではないかと思う。南分署と丸山分署を統合してさらに北側もしくは西側に新しい分署を建てると、青山町の南側をカバーしきれず、到着までかなりの時間がかかりそうなため、南分署を単独でもう少し南側に作り一隊とする。万が一出動が重なった場合は、昔から結びつきのつよい名張市に応援を依頼できないだろうか？	地域の実情に基づいた、大変具体的なお意見をいただきありがとうございます。本構想では消防需要や運用効果・コストのバランスを踏まえC'パターンを採用しております。名張市との連携については、現在、通信指令業務の共同運用をはじめとする連携・協力を実施しており、今後も相互の連携強化に努めてまいります。
15	13	P.14-16	Aパターンの東分署・阿山分署統合配置場所を西之澤交差点付近とするのは妥当であると思う。名阪国道を利用するにも利便性があると思う。	ご賛同いただき誠にありがとうございます。出勤実績や到達時間等のデータを踏まえると、西之澤交差点付近が適正位置であると判断しております。本構想に則り事業を進めてまいりたいと考えております。
16	13	P.35	まとめ 南西ブロック、島ヶ原分署について、移転先は国道１６３号線沿いが望ましいと思う。	大変参考になるご意見をいただきありがとうございます。島ヶ原分署の適正位置については、「消防力適正配置調査」で示された地点を参考に、今後の人口・消防需要の推移や道路整備状況等を踏まえ検討を進めてまいります。いただいたご意見を参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
17	14	全体	人口減少や居住分布の変化に対応していくのは大変好ましいことです。かたや空き家の増加と居住者の高齢化(特に1人住まい)は多くの問題をはらんでいますので悩ましいことです。しっかり議論していただけると助かります。	ご賛同のお言葉ありがとうございます。空き家の増加や高齢化の進展は消防需要にも影響する重要な課題として認識しております。消防行政サービスの在り方について、引き続き市民の皆様のご意見を伺いながら丁寧に議論を重ねてまいります。
18	15	－	メールで案内された資料を確認しようとしたのですが、「ページが見つかりません」と表示され、HPでは何処にあるかわからず内容を閲覧できませんでした。そのため、日頃感じていることを意見として記載します。	ホームページ上での資料閲覧にご不便をおかけし、誠に申し訳ございません。今後は市民の皆様が情報にアクセスしやすい環境の整備に努めてまいります。
19	15	全体	消防署が近くにあることは、市民にとって大きな安心につながると思います。	ご指摘いただいたとおり、消防署の存在が市民の安心感に大きく寄与することは市も深く認識しております。再編後においても、出勤状況や到達時間等を踏まえた署所配置により、市民の皆様の安全・安心を守る体制の維持に努めてまいります。
20	15	全体	消防は火災や救急だけでなく、市民が防火や応急手当などを身近に学び、気軽に相談できる機会や窓口がもっと充実すると、地域全体の安心につながると感じます。知識があることで、防げる事故や落ち着いて行動できる場面も増えると思います。	大変前向きなご意見をいただきありがとうございます。防火・応急手当等の市民への普及啓発活動は消防の重要な役割の一つと認識しております。署所の統合により人員を集約することで、地域への訓練指導等のサービス向上も期待されることから、ご意見を参考に取り組みを進めてまいります。
21	15	全体	消防をもっと身近に感じられる仕組みがあれば、市民も安心して暮らせると思います。私が感じた『消防の配置』とは、建物の場所だけでは無く、『消防と私達市民の想いの中の配置』でもあります。消防を使わずに済むことが一番です。しかし、なくては困る存在でもあります。市民との距離が近づく事で、消防本来の役割や安心につながるのではないかと思います。	心温まるご意見をいただきありがとうございます。「消防を市民に身近な存在に」というご意見は大変示唆に富むものと受け止めております。施設の配置だけでなく、市民との関係構築を大切にしながら、地域に根ざした消防行政サービスの実現に努めてまいります。
22	16	全体	青山地区は山間部及び旧青山町内の距離があるため、統合するのは不適切ではないでしょうか？	貴重なご意見ありがとうございます。青山地区を含む南西ブロックの再編については、消防需要や到達時間、道路状況などを踏まえて引き続き検討してまいります。いただいたご意見は地域の実情を踏まえた貴重なものとして、今後の具体的な位置検討の際の参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
23	17	P.30-35	④C'パターンの配置が沢山の資料を見て適正だと思ったので（統合再編パターンとします…とあり）、実現までの今後の経過を、ホームページ等で確認して行きます。	ご賛同いただき大変心強く存じます。今後の進捗状況については、市のホームページ等を通じて随時情報発信してまいりますので、引き続きご注目いただければ幸いです。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
24	18	P.14-16	消防署が阿山管内になれば、阿山地区の滋賀寄りの地域の方々が、心配なので、伊賀町に作って欲しくない。新しく消防署にする場所は、道の駅あたりの敷地か、BGらへんか、市が関わっている土地にして、なるべくお金もかけず、玉滝や横山、湯舟の方々にも安心してもらえるようにしてほしい。伊賀町は、大山田からも呼べるし名阪があるから上野からもアクセスがいいので。阿山を取り残さないでください。	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。統合分署の設置により阿山地域の消防サービスが維持されることは本構想の重要な前提です。その上で、道の駅付近としますといがまちへの走行時間が著しく延びる（9.6分）こととなり、阿山についても2分延びることとなります。また、阿山の救急出動の4割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する2回目3回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。
25	19	P.14-16	阿山の消防署を無くさないでください。市民の命に関わります。集約も分かりますが、山奥に住んでる人はどうなるのですか？伊賀市は首長がだらしないこともあり、市民に不安ばかり煽るのはいい加減にやめてほしい。	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。本構想は阿山出張所をなくすのではなく、東分署と統合し機能を強化した新たな分署を設置するものです。山間部を含む地域の皆様の安全を守ることを最優先に、適正な位置での新分署整備を進めてまいります。なお、阿山の救急出動の4割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する2回目3回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。また、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
26	20	P.9	Aパターンが望ましい。南と丸山分署の統合は望ましく、南分署を現在地より北側に新設すること。西分署と島ヶ原分署は、長田交差点と大内ICの中間に配置すると、163、名阪、コリドールを各々使用することで市全体をも広くカバーできるのではないかと。勿論、この分署で出動隊を1減らすことが可能になるかと思われる。	道路網を活用した広域カバーという視点は大変参考になるご提案と受け止めております。一方、本市は広大な管轄範囲を有しており、山間部を含む各地域への対応に必要な出動隊数を確保することが市民の安全を守る上で不可欠です。出動隊の削減は消防力の低下に直結するおそれがあることから、現時点では難しい状況です。いただいたご意見は今後の検討における参考とさせていただきます。
27	21	全体	島ヶ原と西は地域は隣あっているが間を結ぶ大きな道路がありません。移動するには上野名張街道が1番早くなるかと思えます。到着時間が大幅に長くなるため、合併はしない方が良くと思います。今回の再編計画もですが、伊賀市合併前の市町村境を基礎に考えられています。特に防災においては幹線道路による移動時間等を中心して計画を練り直す方が良くのではないかと考えます。	貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の道路事情は消防力適正配置調査においても考慮されており、その結果を踏まえてC'パターンでは島ヶ原出張所を独立して存続させる方向としております。実際の運用に際しても道路状況を十分に考慮してまいります。
28	22	P.36-37	添付された資料の結論にあるように予算、時間効率などの面で4プランの中でc'の再編プランを採用することに賛成します。	ご賛同いただきありがとうございます。コスト面と運用効果面のバランスを踏まえたC'パターンの採用について、ご理解をいただきましたことを大変心強く存じます。引き続き着実な事業推進に努めてまいります。
29	23	P.2-3	背景と趣旨について、人口減少社会における持続可能な消防行政サービスの実現に向けて、背景と趣旨については、十分理解する事が出来ました。伊賀地域も範囲が広大となり、消防署行政も大変ですが、第2期伊賀市消防本部組織再編計画を是非計画通り進めて頂きたいと思えます。	ご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。人口減少・少子高齢化という課題に正面から向き合い、持続可能な消防体制の構築に向けて、計画的かつ着実に取り組みを進めてまいります。
30	24	P.36-37	C'パターンを支持します。完了迄財源は確保できるのか。	ご支持いただき誠にありがとうございます。財源については、緊急防災・減災事業債等の有利な特定財源を最大限活用する計画としております。引き続き財政状況を見極めながら、適切な財源確保に努めてまいります。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
31	25	P.33-35	31ページ、南地域の消防需要指標値が9,375と高いことを踏まえ、南分署に出動隊2隊を配置するC'パターンで検討することとします。となっており、 伊賀市南部に位置する青山南部地域にとって大変ありがたく思っています。南分署が出動隊1体制になって出動中には南分署より遠方から救急や消防でお願いすることになり、以前より時間がかかるようになった事例もあります。ですから時間をかけて遠方から来ていただきその後伊賀市の中心部への搬送など時間もかかりようになりました。そんな関係で今回の中間案は大変うれしく思います。なお、現在の南分署は水害の被害を被る可能性もあり、青山地区の人口集積地に近く、なおかつ青山の郡部南部地域にも道路事情が良い位置への検討をお願いします。	南地域の消防需要の高さを踏まえた出動隊2隊の配置について、ご評価いただきましたことを大変ありがたく存じます。移転先については、浸水想定区域外で地域をより効果的にカバーできる位置を検討してまいります。ご意見を参考とさせていただきます。
32	26	全体	人口減少や高齢化が進む中、将来を見据えて消防体制を検討されていることを高く評価します。現状を維持することだけではなく、将来も消防力を維持・向上させるために課題を整理し、市民へ示して議論を進めている姿勢は大変重要だと思います。一方で、消防署所の再編は施設配置だけでなく、「消防力がどのように維持・向上されるのか」を市民により分かりやすく説明することが重要です。出動時間、部隊運用、人員配置、救急体制などについて、再編後の姿を具体的に示すことで、市民の安心感につながると思います。将来の消防を考える姿勢そのものを応援しています。今後も市民との対話を重ねながら、持続可能な消防体制の実現を期待します。 「消防署を守るのではなく、消防力を守る。」	再編後の消防力の維持・向上について市民に分かりやすく伝えることの大切さをご指摘いただき、大変励みになります。いただいたご意見はまさに私どもが目指すべき姿を示していただいたものと受け止めており、深く感謝申し上げます。今後の住民説明や情報発信において、出動体制や到達時間等を具体的にお示ししながら、市民の皆様に安心していただけるよう、より一層丁寧な説明に努めてまいります。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
33	28	P.14-16	今回の中間案に対して、河合地域としてはそんなに変わりが無いと思いますが、伊賀、阿山のエリアを考えた時には、候補地に考慮が必要かと思いましたが、調査報告書の到達時間の図を見比べると分かりやすいのですが、伊賀、阿山より佐那具や府中、服部などに重点を置いたように感じます。出動回数等を勘案してとのことですが、出動内容の結果が分かりません。重症な症状か、何もなく返されるのか、出動回数よりも伊賀、阿山のエリアを重視すべきかと思いました。いかに20分以内に到着出来るか等。	貴重なご意見ありがとうございます。伊賀の救急出動の３割、阿山の救急出動の４割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。また、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。
34	29	P.33-35	33ページ、消防署所適正配置がハザードマップ、コスト、車両の運用効果からC'パターンが採用されているのは、とても良いと思います。	ご賛同いただき誠にありがとうございます。複数の観点から総合的に検討した結果としてC'パターンを採用しており、ご評価いただきましたことを大変心強く存じます。引き続き着実な推進に向けて取り組んでまいります。
35	30	全体	日頃からお世話になっています。自分の住んでいる所からの視点(西分署)からしか見えていませんが、平日、火事について、消防団のいないことを考えれば、今の位置がベターだと思います。A-C"まで見ましたが、西と島ヶ原は山を隔て地理的に分断されています。西－猪田も、学校統合の時、議論になっており、距離が離れていることが問題点として上がっています。一市民として、いざと言うとき、火事、救急は５分以内にお願いしたいものです。よろしくお願いいたします。	地理的実情を踏まえた、具体的にご意見ありがとうございます。消防団との連携や地理的条件は消防力を考える上で重要な要素です。科学的調査の結果も踏まえ、C'パターンでは西分署・島ヶ原分署を別々に再編する方向としており、地理的条件も考慮した上で適正位置の検討を進めてまいります。ご意見を参考とさせていただきます。
36	31	P.6-8	県内の消防本部や同規模の団体の署所数が「６」であることから、市全体の署所数「５～６署所」とすることを目標にしますと記載されている。同規模の団体の署所数との比較で適正とした数値は、人口規模によるものかエリア（面積）規模によるものか、いずれが根拠となっているか不明である。消防署（分署）へ消防・救急の要請場所である現地への到達時間が均一となるように署所数と消防署（分署）の設置場所が検討されているか不明である。	ご指摘ありがとうございます。同規模団体につきましては、伊賀市と人口・面積が近い市単独消防本部としております。なお、到達時間については、複数の地点でのケーススタディを実施し、市全域での到着率を比較した上で適正配置を検討しております。ご意見を参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
37	31	P.30-35	「C'パターン」を【南西ブロック】の統合再編パターンとしますと記載されている。伊賀市（旧上野市南部）は、国道422号と国道368号の市内を南北に走行できる幹線道路があるため、緊急を要する消防・救急への出動要請から現地到達迄が比較的短時間となっている。しかし、国道422号と国道368号を結ぶ東西の道路が整備されておらず、緊急車両の走行に支障を来たす状況にある。丸山分署と西分署を統合した新たな分署の適正位置は示されていないが、丸山分署と西分署の中間位置では猪田地区の国道368号沿いが考えられる。この場合、神戸地区にとって緊急車両の到達時間が問題となる。また、南分署の出動隊２隊の配置計画により、神戸地区への対応も可能と思われるが、南分署の配置計画位置が明確化されていない。このため、C'パターンの検討結果は理解するが、丸山分署の存続を要望する。	具体的なお意見ありがとうございます。丸山分署と西分署の統合分署の適正位置については、今後の人口・消防需要の推移や道路整備状況等を踏まえ検討を進めてまいります。丸山分署存続のご意見については、今後の検討における参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
38	32	全体	平成の大合併により、市域は大幅に拡大しています。消防体制の再編強化は必要急務だと思います。近年内外で、大規模な山間部での森林火災が多発していて、決して他人事とは思えない状況です。当伊賀市も、私の住んでいる旧青山町の他、旧上野市周辺の広大な山間部森林地域を合併したことにより、広大な森林地域を市域に持つことになりました。拡大された区域は、もとより消防体制の手薄な区域で、近年の森林火災発生と同様に、火災が発生してもすぐには火災発生が確認されないために、特に森林火災では初期消火の対応が重要ですが、手遅れになることが懸念されます。予算の制約から、どうしても人口集積の高い、市街地部に手厚い体制になることは、どうしようもないことだとは思われますが、結果消火の遅れから周辺部の、近隣集落や市街地に大規模な影響が出ていることを鑑みた場合、火災発生の早期発見と迅速な初期消火への対応のためにも、人口集積は低くても、現状消防体制が手薄になっている、山間部森林地域への早急な体制の強化は、やはり必要急務だと思います。山間部森林地域に、実際に居住している立場としても、今回の消防体制の再編に当たっては、是非、山間部森林地域への体制強化を含めて、抜本的に対応されることを切望します。 （WEBページから、今回の再編計画案を閲覧の上で、意見を出すことにしていましたが、既にWEB ページで閲覧できない状態になっていました。）	貴重なご意見ありがとうございます。森林火災への対応力強化は重要な課題と認識しており、統合分署へのヘリコプター離着陸場の整備等により、山間部への対応力向上を図ってまいります。ご意見を参考とさせていただきます。また、ホームページの閲覧でご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。
39	33	全体	伊賀市面積は非常に広い。この広い地域をカバーするためには何に重点を置くかが重要になってきます。伊賀市は人の命や人権を大切にしてくれるところだと思っていました。しかし、実際には、命よりも効率を優先する「まち」「消防」だと宣言したような中間案だと思います。消防や救急のためにこの広いエリアをカバーするためには、緊急出動の割合が少ない地域を犠牲にしても良いと考えている中間案だと思います。	ご意見をお寄せいただきありがとうございます。本構想は効率化を優先するものではなく、限られた人員・財源の中で市全域の消防力を将来にわたって維持・強化するための取り組みです。どの地域の方も等しく守られるよう、引き続き丁寧に検討を進めてまいります。ご意見を参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
40	33	全体	中間案では、諏訪地区や槇山地区は20分以上かかる地域が存在します。一方で上野地区では、到着時間が短縮されるように思います。極端な言い方ですが、上野のための消防署の統合のように見えます。20分以上かかる地域をなくすためには、統合した消防署を現在の阿山分署よりもさらに北に設置することが解消につながると思います。さらに、ヘリポートの設置するためにも阿山運動公園周辺にすれば、国有林がありさらに運動公園には照明設備もあるため、予算は大幅に削減でき、工期も短縮できると思います。	具体的なご意見ありがとうございます。統合分署の位置については、市全域への到達時間のバランスを重視して検討しており、特定の地域を優先するものではございませんが、阿山運動公園周辺としますといがまちへの走行時間が著しく延びることとなります。また、阿山の救急出動の４割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。
41	34	P.4	消防需要指標値の分布 署の位置を入れ込んでいただきたい。	添付のとおりです。
42	34	P.14-15	一つのケースに候補地を結論づけるのではなく、ケーススタディそれぞれに検討委員会で議論した内容を明記し、優先順位をつけて答申していただきたい。その根拠は、（一社）消防防災科学センターの調査報告書 p145の「7. 4まとめ」にあるように、「実際の署所移転に当たっては、署所移転が効率性のみを根拠としておこなわれることの無いよう、必要なほかの要件についても改めて検討されることが求められる」という一文にある。この指摘こそ、民主的な議論のための大切なプロセスである。検討委員会自体が非公開であり、議事録の公開もなく、何を議論したのかもわからないままであり、一つの結論に絞ってしまうのは問題である。	ご意見ありがとうございます。検討委員会における議論の透明性につきましては、市民の皆様への丁寧な説明が重要であると認識しております。候補地の検討プロセスについて、もう少し詳細に基本構想に記述するようにいたします。
43	34	P.70 （報告書）	調査報告書全体を通じて、道路状況に基づく市内各地点への走行時間が算出されたものと考えられるが、結果のみが記載され、そのときの道路状況がどのようにパラメーター化されたのか、ある地点への行き方が複数ある場合、どのコースをとっているのか説明がほしい。また本署や大山田分署から行く場合など、同じ地点へ行くにしても様々なコースがあるが、それらがどのようにして導かれているのか説明がほしい。	図2.1.4（別添）に示されている道路ネットワークを基にして、各署所から目的地（各メッシュ）までの時間が最短となるルートを走行するものとして計算されています。本調査では災害件数（主に救急事案）が最も多い時間帯となる平日午前を想定して速度設定がされています。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
44	34	P.70 (報告書)	議事録が公開されていないので不明だが、適正配置検討委員会は、到着率のことばかりではなく、到着後の搬送状況などについての議論もするべきではなかったのか。到着が早くても遅くても、病院へ搬送に時間がかかる県境付近のことをどのように考えたのか。	ご意見ありがとうございます。平均走行時間（現場到着平均時間）は消防行政の中では一般的な指標であるため採用させていただいておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。
45	34	P.4 (中間案) P.70 (報告書)	いわゆる西之澤交差点から柘植に向かっては、魚の背骨のような形で平坦に道路があり、おおむねその両側に住居が並んでいる。一方、西之澤交差点から北の滋賀県境に向かっては、扇状かつ平坦でない起伏に富んだ樹状あるいは編目状に、道幅の狭い曲がりくねった道路のところどころに住居が点在している。そういった特性により、到着だけを考えても難易度の高い運転となる。そういうことから考えれば、少しでも滋賀県境に近い方に新庁舎を建てるのが、「誰一人取り残さない」「安心安全のまちづくり」に適すると思われる。	ご意見ありがとうございます。滋賀県境付近への新庁舎の配置としますといがまちへの走行時間が著しく延びることとなりますので、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、名阪国道での火災・救急・救助事案も一定数あり、多重事故等への対応もでございますので、ご理解賜りますようお願いいたします。
46	34	P.3 (中間案) P.13 (報告書)	①の平均走行時間は、東が+2.5の8.2分、阿山が+2.3の10.5分。②の場合は、東が+0.2の5.9分、阿山が+4.3の13.0分。一方、③の場合は、東が+4.2の9.9分、阿山が+1.6の9.8分。であることから、②は論外だが、③が両地域とも平均走行時間が10分を切るということで公平感が強いと思われる。増加時間だけを見ると、東が+4.2分と大きいため、「運用効果に語りが生じる」と結論づけているが、もともと阿山の平均走行時間が大きかったことを考えれば、③の方がまんべんなくなることから適切だと考える。地図の色分けからもわかるように、槇山新田のようなところに対しても公平度が高まる。	ご意見ありがとうございます。委員会におきましても、①と③での議論となりましたが、いがまち・阿山両地域へのアクセス、及び市全体での運用効果を踏まえ①となったものです。なお、阿山の救急出動の４割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
47	34	P.4	議事録が公開されていないので不明だが、適正配置検討委員会は、救急車や消防車の到着率などを根拠にした新庁舎の位置選定で、実際の医療についての通院状況などの日常生活実態（通院など滋賀県へ行く人も多い）を扱っていないと思われる。であるならば、この答申は市長にしたとしても、それがそのまま位置の決定ではなく、その後、生活実態などに立った、通院状況などを調べたり、別の視点からの問題点などを検討できるように、本答申は、順序づけに留めておくべきではないか。	ご意見ありがとうございます。消防行政サービスは、消防組織法に基づく市町村消防の原則に則り実施しているものですので、ご理解賜りますようお願いいたします。なお、甲賀広域行政組合消防本部とは、相互応援協定を締結しております。
48	34	P.4	西之澤交差点には葬儀場があり、通夜や葬儀を執り行うに当たり、消防署特有の音などの影響が出ることが考えられ、大切な時間が台無しになってしまう可能性がある。西之澤交差点付近を選択することに反対する。	ご意見ありがとうございます。庁舎周辺の環境への影響についてのご指摘は、地域の生活環境を考えるうえで大切な観点であると受け止めております。候補地の選定にあたっては、周辺環境への影響も含め総合的に検討を進めており、いただいたご意見は参考とさせていただきます。
49	34	P.4	7.5分の到着率最大となる①西之澤交差点付近となると、人口密度の多い第1地域を中心に増加するとはいえ、逆に滋賀県境の到着は遅れる地域が増えてしまう。住む場所による格差を広げてしまう。少しでも住むところによる格差が少なくなるよう、③より北に庁舎の位置がなるようにすべきである。現状においても、伊賀市の広域性を全住民に認識してもらい、公共サービスについて遠いところを切り捨てる形にしてはいけないという認識を持てる市民文化を育てていかなければならない。	ご意見ありがとうございます。③よりも北の位置としますといがまちへの走行時間が著しく延びることとなります。また、阿山の救急出動の４割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：35人（意見なし：2人） 意見数：57件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
50	34	P.4	①の西之澤交差点であれば、せっかくの優良農地を用地購入することになり、施設設備の建築もすべてフルで工事しなければならない。費用もフルで使わなければできそうにない。しかし、今後人口減少が進むことを考えたとき、仮にJAあやま付近であれば、JAとの駐車場の共用、会議関係施設の貸借りの融通、食糧や燃料備蓄の協力などもポテンシャルをあげつつ、便利に考えられることができる。財政的な負担を減らすだけでなく、地域防災としての協力関係も深められる。また、いずれ現在の阿山支所などの老朽化にともなう支所移転などを考えると、阿山の独自性を活かすためにも、JA付近に移転することが望ましい。ちなみに、候補には挙がっていないが、道の駅あやま付近で新庁舎を設置するのであれば用地取得による財政の心配はほぼなくなり、また地域の拠点づくりにも役立つと思われる。この議論も文化センターの議論でも扱っていただきたい。	ご意見ありがとうございます。用地取得費や他施設との連携・複合利用に関するご提案は、財政運営の観点から参考になるご意見と受け止めております。庁舎位置の選定にあたっては、費用面も含めた総合的な検討を進めておりますが、道の駅付近としますといがまちへの走行時間が著しく延びる（9.6分）こととなり、阿山についても2分延びることとなります。また、阿山の救急出動の4割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する2回目3回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。
51	34	P.4	検討委員会の考え方として、公平性からは③だが、東方面が現状より到着時間が遅くなるというが、阿山の奥も需要は少ないといえども、遅くなる。東向きには「魚の背骨」的な住居環境であるのに比べ、北向きは「高低差やカーブの多い扇形の編目状」の住居環境である。雨天時や夜間、その他災害発生時などは、ますます遅くなる。単純な計算ではいけないことを加味すべきである。	ご意見ありがとうございます。地形や道路状況による実走行への影響についての具体的なご指摘は、現場実態に即した重要な観点と受け止めております。しかしながら、名阪国道での火災・救急・救助事案も一定数あり、多重事故等への対応もございますので、ご理解賜りますようお願いいたします。
52	34	P.26	庁舎建築費がかかるのはしかたがない。特定財源（緊急防災減災事業債）といえども、用地に1億7282万円が計画されている。同じ用地なら、他の施設と連携できる土地がよい。	ご意見をいただきありがとうございます。用地取得費の有効活用や他施設との連携についてのご提案は、限られた財源を効率的に活用するうえで重要な視点と受け止めております。今後の庁舎整備に向けた検討の参考とさせていただきます。
53	34	P.4	ケーススタディ①について、国道25号は渋滞しては困る道路。時間によって交通集中してしまう交差点でもある。近くの葬儀場の読経中などにサイレンや大声が入ることも想定できるので避けるべき。	貴重なご意見ありがとうございます。国道25号の交通状況や周辺施設への影響についての具体的なご指摘は、現地事情に基づいた重要なご意見と受け止めております。候補地の選定にあたっては、交通環境や周辺環境への影響も含め総合的に検討しており、ご意見は参考とさせていただきます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
54	34	P.4	到着に掛かる時間だけを尺度にした案をもって決めた内容を答申するのはよくない。別の視点、たとえば財政的な面、他事業所との協力の面などのメリットデメリットを書き込んで複数案を答申するべきと思う。検討会で何を議論したのか、議事録も見られないまま、結論ありきの中間案パブコメ募集になっている。単に到着率などに基づいて話を進めたのではないか、それならば、調査報告書の結果だけあればよいのではないか。検討会自体が手順を踏むだけ、プロセスを踏むだけのものになってしまい、市民の声はこのパブコメの１ヶ月だけの募集。それも中間案で一つの候補地にしぼった上でのパブコメにどれほどの意義があるのだろうか。市民憲章に照らして、この一つの案に絞った中間案を受け入れることはしがたい。	ご意見ありがとうございます。検討委員会における議論の透明性につきましては、市民の皆様への丁寧な説明が重要であると認識しております。候補地の検討プロセスについて、もう少し詳細に基本構想に記述するようにいたします。
55	34	P.4	データからして、東署と阿山署の統合と言っても、そもそも、いわゆる第１地域（中）への消防需要に応えるために統合移転と考えられた提案であると読み取れる。その結果、ケース①がよいと結論に至ったものと認識する。要は、現状の消防需要に応えることを優先するか、周辺部での暮らしに安心安全を張り巡らせるため、到着時間は掛かっても（例えば15分到着や20分到着の）市内での均衡を図る方を優先するかという判断である。とすれば、これからのまちづくりを考えたときに、周辺部での生活を大切にするために中間案の結論ではなく、市周辺部を見捨てることのないケース③であってほしいと考える。	ご意見ありがとうございます。実際のところ、阿山の救急出動の４割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。なお、統合分署にはドクターヘリが着陸できるヘリポートを併設しますので、重症患者様がより早く医療機関に到着できる体制を整えます。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
56	34	P.4	7.5分、10分、15分のそれぞれの到着率を中間案では比較検討しているが、7.5分の結果を見れば、分署周辺、分署と大山田分署、本部で囲むエリアを中心に短時間で到着できる人口密度の高いところは安心が増すものの、一方で伊賀北東部（滋賀県境の周辺部）では到着に時間が掛かることが明らかになっている。人口密度の多いところに頻繁に出動しなければならないことから言えば、そこに近い庁舎の方がいいに決まっているが、遠いところに住む人を放っておいていいということでは決してない。7.5分到着率で行ける範囲に住む人は、タクシーやバス、また助け合いの移動手段にすぐれる確率も高い。一方、周辺部（7.5分で20分以上かかる場所）は、タクシーもバスもない、また助け合いの手段としても、そもそも人口密度が低く、いても高齢である。そうした中、単に需要の多い、交通手段の選べる便利な地域に近い方を選ぶのは正当な理由になるのだろうか。公平性を言えば、15分到着率が最大になる河合地区③こそが、ベストになってくる。検討委員会の考え方として、公平性からは③だが、東方面が現状より到着時間が遅くなるというが、阿山の奥も需要は少ないといえども、遅くなる。東向きには「魚の背骨」的な住居環境であるのに比べ、北向きは「高低差やカーブの多い扇形の編目状」の住居環境である。雨天時や夜間、その他災害発生時などは、ますます遅くなる。単純な計算ではいけないことを加味すべきである。	ご意見ありがとうございます。実際のところ、阿山の救急出動の4割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する2回目3回目の出動の効率化も踏まえ、両地域を見据えた署所配置の検討が必要であることをご理解いただけますと幸いです。また、名阪国道での火災・救急・救助事案も一定数あり、多重事故等への対応もございますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

【伊賀市パブリックコメント実施結果】

伊賀市消防署所適正配置基本構想（中間案）に対するパブリックコメント実施結果

意見提出者数：３５人（意見なし：２人） 意見数：５７件

意見No.	提出者	該当箇所	ご意見等	市の考え方
57	35	P.145 (報告書)	西分署島ヶ原出張所の出動実態から伊賀市全体で考えると現在地より東側への移転については理解できますが、地域住民の合意形成を得るためには以下の各項について配慮していただく必要があります。 １．島ヶ原分署を廃止・移転・統合することなく、現在地近辺において消防・救急機能を維持すること。（可能な限り地域内移動） ２．消防署所の配置検討に当たっては、人口密度や財政効率だけではなく、初回出動時間、人命救助率、地域特性及び災害対応能力を最重要評価項目とすること。 ３．平成16年の市町村合併時の理念及び地域間の均衡ある行政サービスの提供を十分尊重すること。 ４．再編計画については、地域住民への十分な説明及び意見聴取を行い、合意形成を図ること。	貴重なご意見ありがとうございます。なお、島ヶ原の救急出動の６割以上が管外への出動であり、出動中の空白時間を補完する２回目３回目の出動の効率化も踏まえた署所配置の検討は必要であることをご理解いただけますと幸いです。
意見なし	5	－		
意見なし	10	－		